

中世の河越城と、かわらけ

戦国時代を題材としたテレビドラマで、出陣前の武士たちが、酒を酌み交わす場面を見たことがありますか。その時に武士たちが手にしている器が、かわらけです。劇中では、白いきれいな杯が使われることもありませんが、実際には素焼きの器が使われていました。左の写真のような形をしていて、大きさは直径約十一センチ、高さ約三センチの物が多く出土しています。

かわらけは平安時代の後半、武士の登場と共に生まれました。酒宴や儀式などの食器として、また神仏の前に明かりをとすために、城の中などでたくさん使われた器です。日常的な食器とは異なり、一回だけ使って捨てられる特別な器でした。

酒宴というと、今では祝いの席などを想像します。当時は酒を楽しむというよりも、同席している人々の団結を神仏の前で確認し、誓い合う場であったようです。

これまでの河越城の発掘調査から出土した、大量のかわらけの年代を調べてみると、十五世紀末から十六世紀前半に集中しています。この年代は、扇谷上杉氏が河越城をめぐり山内上杉氏と、さらには小田原北条氏と激しい攻防を繰り返していた時代です。



河越城跡から出土したかわらけ

戦いを前にした兵士たちは、死を覚悟して酒宴に参加していたことで、う。やがて太平の世が訪れると、かわらけは酒宴の席から姿を消しました。今日では、神事仏事などで使っているところがあります。

世界の国から、こんにちは！



スウェーデン/クラス・ヨハンソンさん

昨年9月にストックホルムのベクシヨ大学から、日本語の勉強をするために来ました。日本の米は、ごはんだけでもおいしく食べられますね。おかずの種類も多いので、日本食は大好きです。冬になると、壁や床に組み込んだパイプに温水を流して家全体を暖めるスウェーデンと違い、日本は寒く感じました。

川越は蔵造りなどの歴史的な建物が残る、美しい所ですね。自然が豊かなだけでなく、生活にも便利なので、日本に住み続けることになったら、川越に住みたいです。

*外国籍市民の皆さんを対象にした催しは9ページ・13ページ、相談は19ページをご覧ください。

国際交流課国際交流担当・TEL内線2141

どんぐり

編集後記

このところ川越は、すこぶる活気にあふれています。とりわけ連休中は、驚くほどのにぎわいを見せました。小江戸の風情を楽しもうと、家族・カップル・バスツアーの団体など実にさまざま。蔵造りの町並みや時の鐘を、思い思いに散策したり撮影したりしていました▶連休中は、市の施設も大盛況でした。川越まつり会館の入館者数は昨年より5割多い5,722人、蔵造り資料館の入館者数は昨年より4割多い5,692人。さらに川越城本丸御殿の入場者数は昨年より6割多い11,651人でした。これほど注目されるのは、市民の皆さんが伝統や文化を今も大切に受け継いでいるからこそ。観光客誘致1,000万人を目指す川越。市民の皆さんに感謝するとともに、これからもまちの魅力をどしどしアピールしていきたいと思っています。